

丸の内舗装繕 夜間現場を公開

中部整備局名古屋国道

中部地方整備局名古屋国道事務所は25日、名古屋市中区丸の内の日銀前交差点で進めている国道19号丸の内舗装繕工事の夜間現場を公開した。既設のアスファルト舗装をコンクリート舗装に更新するもので、同工事ではP C a (プレキャスト) コンクリート版による舗装工法を採用。



P C a コンクリート版の本設置の様子

深夜から交通規制をかけ、既設アスファルト舗装の撤去やP C a コンクリート版の仮設

置と本設置を行った。施工は佐藤渡辺が担当している。

コンクリート舗装は、アスファルト舗装に比べ耐久性が高く維持管理コストを低減できる。現場で採用したP C a コンクリート版は、工場で作し一定の強度が発現したものを据え付けるため、交通管制の時間が短縮できる。

日銀前交差点は、市内を南北に結ぶ伏見通と東西に結ぶ桜通の交差点部で交通量が多い。このため、交差点中央部の1172平方メートルはP C a コンクリート版で夜間に施工、周辺部は現場打ちコンクリートで施工する。

設置するP C a コンクリート版は縦1・49メートル、横4・99メートル、厚さ0・18メートル。重量は35ト。工事は2枚の仮設置と2枚の本設置を並行して行う。仮設置は、既設アスファルト舗装に切れ目を入れ、2枚分の面積を撤去。P C a コンクリート版の厚みに合わせ

施工＝佐藤渡辺 P C a コンクリート版採用

て整地した後、仮置き用の発泡スチロール板を敷き、その上に設置する。

本設置は、前日に設置したP C a コンクリート版2枚を一時撤去し、グラウト注入のためのビニールシートを敷いた上に再度、据え付ける。隣接部を結合し、P C a コンクリート版の下にグラウトを注入。グラウトが所定の硬度以上になったことを確認した後、本・仮設置したP C a コンクリート版の周りを仮舗装し、車両が通行できるようにする。

当日は午後10時30分に交通管制を開始し、同11時から既設のアスファルト舗装の撤去に入った。右左折車両の誘導など周囲の交通にも注意を払いながら本設置と仮設置を進め、26日早朝に作業を完了。午前5時に交通管制を解除した。

P C a コンクリート版の設置は12月に終了予定。